

履修要項

履修上の注意点

1. 進級要件

各学年末において、下の表に示す進級要件修得単位数を修得していない場合、次の高学年次へ進級し、その課程を履修することができない（岐阜薬科大学学修規程内規・第10条）。

ただし、実習科目は、その開講されている年次において修得しなければならず、修得できていなければ進級することができない。

（医療薬学コース）

区分	1年次	2年次	3年次	4年次
進級要件 修得単位数	30 単位以上	67 単位以上	107.5 単位以上	128.5 単位以上
通計単位数	40.5 単位以上	76.5 単位以上	112 単位以上	133 単位以上

（創薬育薬コース）

区分	1年次	2年次	3年次	4年次
進級要件 修得単位数	30 単位以上	67 単位以上	110.5 単位以上	130 単位以上
通計単位数	40.5 単位以上	76.5 単位以上	115 単位以上	134.5 単位以上

単位の計算方法

授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算する。

- （1）講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- （2）実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- （3）一授業科目について講義、演習、実習のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準は、講義時間を2倍、演習時間を1.5倍、実習時間を等倍して、合計時間が30時間の授業をもって1単位とする。

成績評価

科目試験等、学修成果の評価等に関する具体的な基準は各科目の成績評価のページに示す。さらに、各科目の授業開始時に担当教員が学生に対して周知する。

科目の成績は、合格と不合格に分け、合格をさらに優・良及び可に区分する。（学則細則第3条）

●GPAの算定方法

優・良・可を、優（3点）、良（2点）、可（1点）と点数化し、

$GPA = \frac{\text{各科目の点数（単位数} \times \text{成績点）の合計}}{\text{通計単位数}}$ とする。

実習、演習、体験学習、SGD (small group discussion)、PBL (problem based learning)、ロールプレイ、e-learning については全出席を原則とする。

2. 薬学共用試験と病院・薬局実習

5年次に開講される病院実習（2.5ヶ月）・薬局実習（2.5ヶ月）を履修することができるのは、薬学共用試験に合格した者のみである。

薬学共用試験は医療現場で実習を行うだけの能力に達しているかを確認するためのもので、知識を問う CBT（computer based test）と技能・態度を評価する OSCE（objective structured clinical examination）の2種類があり、この両方に合格した者のみが医療現場での実務実習「病院・薬局実習」を履修することができる。

3. 卒業要件

卒業するためには、6年以上在学し、基礎教育科目及び専門教育科目について次の表に定める単位を修得しなければならない。（岐阜薬科大学学則第36条）

（両コース共通）

基礎教育科目	専門教育科目	合計
32.5 単位	154.5 単位	187 単位

4. 薬学教育モデル・コアカリキュラムと一般目標及び到達目標

卒業時までには学生が身に付けておくべき必須の能力（知識・技能・態度）を示した「薬学教育モデル・コアカリキュラム（以下、「コアカリキュラム）」は、最終的に「薬剤師として求められる基本的な資質」を身に付けるための一般目標（GIO※1）（学生が学修することによって得る成果）及びGIOを達成するための到達目標（SBO※2）（学生がGIOに到達するために、身に付けておくべき個々の実践的能力）を明示したものである。

シラバスでは授業科目ごとにGIO及びSBOを設定しており、対応する番号等を記載している。見方については ページを参照すること。また、本学独自のアドバンストカリキュラムの教育目標については、各科目内に『▶』で示してある。

※1 general instructional objective

※2 specific behavioral objective

5. シラバスの見方

6年間で開講される基礎教育科目及び専門教育科目は、10～12 ページの履修課程表にまとめてある。13 ページ以降には、1回生から順番に授業のシラバス・成績評価法が記載されている。複数の教員・研究室が担当する科目の場合、責任者に○印が記載されている。

基礎教育科目履修課程表

区分	授業科目		標準履修学年及び単位数				
			1回生		2回生		
			前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	自然科学系	一般化学	必修	1.5			
		数学	必修	1.5			
		情報処理基礎実習	必修	1			
		物理学	必修	1.5			
		無機化学	必修		1.5		
		生物学	必修	1.5			
		統計学	必修		1.5		
		地球環境論	選A	1.5			
		情報処理科学	選B		1.5		
		コンソーシアム科目Ⅰ	選B		1.5		
		コンソーシアム科目Ⅱ	選C			1.5	
	人文・社会科学系	コミュニケーション論	必修	1.5			
		法学	必修	1.5			
		生命倫理学	必修			1.5	
		経済学	選A	1.5			
		文学	選A	1.5			
		心理学	選B		1.5		
		コンソーシアム科目Ⅲ	選B		1.5		
		コンソーシアム科目Ⅳ	選C			1.5	
		哲学	選C			1.5	
	社会学	選C			1.5		
	外国語	実用英語Ⅰ	必修	1			
		実用英語Ⅱ	必修		1		
		実用英語Ⅲ	必修			1	
		英語会話Ⅰ	必修	1			
		英語会話Ⅱ	必修		1		
		英語会話Ⅲ	必修			1	
		ドイツ語Ⅰ	選A	1			
		ドイツ語Ⅱ	選B		1		
		ドイツ語Ⅲ	選C			1	
		中国語Ⅰ	選A	1			
		中国語Ⅱ	選B		1		
中国語Ⅲ	選C			1			
体保健	健康・スポーツ科学	選A	1.5				
	健康・スポーツ実習	必修		1.5			
小計	講義	必修	11	5	3.5		
	講義	選択	8	8	8		
	実習	必修	1	1.5			
	実習	選択					
基礎教育科目の合計			20	14.5	11.5		

- 注1. 選Aの6科目のうち3科目を選択すること(1回生前期)。なお、外国語科目を含むため、通計単位数の計算においては、3科目合計単位数を4.0とカウントする。
2. 選Bの6科目のうち3科目を選択すること。但し、コンソーシアム科目を選択する場合には、そのⅠまたはⅢのいずれかを履修すること(1回生後期)。なお、外国語科目を含むため通計単位数の計算においては、3科目合計単位数を4.0とカウントする。
3. 選Cの6科目のうち、2科目を選択すること。但し、コンソーシアム科目を選択する場合には、そのⅡまたはⅣのいずれかを履修すること(2回生前期)。なお、外国語科目を含むため、通計単位数の計算においては、2科目合計単位数を2.5とカウントする。

区分	授業科目		標準履修学年及び単位数															
			1回生		2回生		3回生		4回生		5回生		6回生					
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門教育科目	医療基礎薬学系	医薬品安全性学	必修							1.5								
		医療心理学	必修							1.5								
		製剤学Ⅰ	必修					1.5										
		製剤学Ⅱ	必修						1.5									
		製剤学実習	必修					0.5										
		病態生化学Ⅰ	必修					1.5										
		病態生化学Ⅱ	必修						1.5									
		生物薬剤学	必修						1.5									
		調剤学	必修							1.5								
		薬物動態学	必修					1.5										
		薬物動態学実習	必修					0.5										
	医療薬学系	医療薬学コース	臨床薬剤学	必修							1.5							
			治験薬学	必修							1.5							
			医薬品情報学	必修						1.5								
			医療コミュニケーション	必修							1.5							
			総合臨床薬学	必修								3						
			薬物治療学Ⅰ	必修						1.5								
			薬物治療学Ⅱ	必修							1.5							
			病院・薬局実習	必修									20					
		医療薬学コース	基礎臨床薬学	必修												1.5		
			代替医療論	選D							1.5							
			化粧品健康学	選D							1.5							
			実践医療薬剤学	選D							1.5							
			医療経済論	選D							1.5							
			総合医療薬学演習	選E						0.5								
			アドバンスト実践臨床薬学Ⅰ	選E													1.5	
			アドバンスト実践臨床薬学Ⅱ	選E													1.5	
			アドバンスト実践臨床薬学Ⅲ	選F									1.5					
	地域医療実践薬学	選F													1.5			
	創薬学系	創薬育薬コース	危険物化学	選G						1.5								
			応用天然物化学	選G						1.5								
			薬品合成化学	選G						1.5								
			創薬学Ⅰ	選G						1.5								
高分子化学			選G						1.5									
創薬学Ⅱ			選H							1.5								
医薬品開発学			選H							1.5								
総合創薬育薬演習			選J						0.5									
ドラッグデザイン演習			選J							1.5								
アドバンスト創薬育薬学Ⅰ			選J									1.5						
アドバンスト創薬育薬学Ⅱ			選K									1.5						
アドバンスト創薬育薬学Ⅲ			選K									1.5						
特別実習	必修									25								
小計	講義	必修	4.5	7.5	10.5	11.5	17.5	14.5	12	1.5				1.5				
	講義（医療薬学コース）	選択							6					4.5				
	講義（創薬育薬コース）	選択						7.5	3							3		
	演習	必修				3										3		
	演習（医療薬学コース）	選択						0.5								1.5		
	演習（創薬育薬コース）	選択						0.5	1.5							1.5		
	実習	必修		2	3	2	3			3		20				25		
専門教育科目の合計			4.5	9.5	13.5	16.5	20.5	23	22.5	4.5	20		6	34				

注1. 3回生後期から、医療薬学コース又は創薬育薬コースのいずれかのコースを選択する。

2. 医療薬学コースは、選Dの4科目のうち3科目を選択(4回生前期)、選Eはすべて履修、選Fの2科目のうち1科目を選択(4～6回生)すること。

3. 創薬育薬コースは、選Gの5科目のうち2科目を選択(3回生後期)、選Hの2科目のうち1科目を選択(4回生前期)、選Jはすべて履修、選Kの2科目のうち1科目を選択(4～6回生)すること。

実務家教員一覧

○吉村 知哲：病院（35年）

病院における薬剤師業務の経験を活かし、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れについて講義・実習を行う。また、指導薬剤師と連携し、学生が充実した実習ができるような環境整備を行う。

○中村 光浩：病院（14年）、薬局（4年）

病院でのチーム医療、薬品試験、院内製剤関連業務、並びに、薬局における地域医療の経験を活かし、薬剤師の業務の講義・実習を行う。

○井口 和弘：薬局（9年）

薬局における薬剤師業務の経験を活かし、薬局での実習中に学んで欲しい薬剤師の業務やそのプロセスの具体的な実践例を示す。

○林 秀樹：病院（13年）、薬局（2年）

多職種での連携したチーム医療を実践し、患者に対する安全で有効な薬物療法の提供のために必要な知識と技能を修得できるよう臨床経験を活かした講義・実習を行う。さらに、学生が実務実習において医療人に必要な態度を修得できるよう実習施設の指導薬剤師と連携して環境整備を行う。

○舘 知也：病院（19年）

病院における薬剤師業務の経験を活かし、臨床現場における薬剤師の業務（薬物療法の実践、チーム医療・地域保健医療への参画等）について講義・実習を行う。また、指導薬剤師や他教員と連携・協力して実習を受ける学生を支援する。

○伊野 陽子：病院（11年）、薬局（10年）

病院および薬局における薬剤師業務の経験を活かし、患者・来局者に対する情報収集・服薬指導の実践に向けて必要な講義・実習を行う。

○野口 義紘：病院（10年）、薬局（9年）

病院および薬局における薬剤師業務経験を活かし、薬剤師職務に必要な基本的知識・技能を習得できるように実習を行う。

○長内 理大：病院（5年）、薬局（4年）

病院および薬局における薬剤師業務の経験を活かし、薬剤師職務に必要な基本的知識・技能を習得できるように実習を行う。

○山下 修司：薬局（14年）

学校薬剤師活動の経験を活かした実地での実習、地域保健医療への参画を体験してもらえよう。他教員と連携しながら講義・実習を行う。また薬局での業務経験を活かし、薬剤師として業務を行う上での必要な知識および技術を習得できるように講義・実習を行う。

○玉木 啓文：薬局（7年）

薬局における薬剤師業務の経験を活かし、セルフメディケーションや健康サポート薬局など、薬局に求められる地域や病院との連携、地域包括ケアへの参画など、薬剤師業務に必要な知識・技能を習得できるように実習を行う。

○小林 亮：病院（10年）

病院における薬剤師業務の経験を活かし、臨床現場における薬剤師の業務（薬物療法の実践、チーム医療・地域保健医療への参画等）について講義・実習を行う。また、指導薬剤師や他教員と連携・協力して実習を受ける学生を支援する。

